

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1990100222		
法人名	社会福祉法人ひかりの里		
事業所名	グループホームめだかの学校・千塚公園西		
所在地	甲府市千塚3-9-31		
自己評価作成日	平成23年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

http://www.kaigo-kouhyo-yamanashi.jp/kaigosip/Top.do
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年3月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

千塚の車通りの少ない住宅と畑の間に設立され、近くに公園もありゆったりと過せる環境にある。ホームにも畑があり、特に夏は野菜作りに精を出し、草取りなども利用者も行っている。ホームも南向きで日当たりもよく、まだ設立約2年の新しいホームである。家庭的な雰囲気を大切にして、少人数や個別の外出も行っており、同一法人内の合同のイベントなどもある。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は表通りから少し入った住宅地の中で、近くには公園や買い物の店もあり、近所の住民が畑で働く姿や、住民の生活の場も身近に見ることが出来るなど、落ち着いた環境の中にある。運営する法人の本部は甲斐市にあり、クリニックを経営している。また、甲斐市・甲府市を中心に在宅系から入所系まで各種の福祉施設を備え、当事業所も湯村や武田など比較的近くの事業所と、防災面や人事面また行事などで事業所間の連携がとれて、医療から終末期まで安心して過ごせる体制が整っている。利用者は尊厳を大切にされ、心に添った支援の中で、その人らしく、穏やかな日々を過ごされている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 グループホームめだかの学校・千塚公園西

[セル内の改行は、(Altキー) + (

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1 階)	ユニット名(2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	尊厳を大切にし、その人らしく安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアにあたっている。会議等で職員にも周知徹底している。	尊厳を大切にし、その人らしく安心して笑顔で過ごせるよう、理念を共有しケアにあたっている。会議等で職員にも周知徹底している。	理念がフロアーの壁に貼ってあり、月1回の職員会議の折には、職員一同で読み合わせを行っている。また、理念を書いた紙をポケットに入れて持っている職員もいるなど、職員一同で理念を共有して、心に添った支援に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事には声をかけてもらうようにし、運動会の応援などに行っている。地域の理容店など利用し散歩でも挨拶を積極的にしている。地域の人たちが時々レクリエーションに来てくれている。運営推進会議を通して、もっと関わりが持てるよう努力している。	地域行事には声をかけてもらうようにし、運動会の応援などに行っている。地域の理容店など利用し散歩でも挨拶を積極的にしている。地域の人たちが時々レクリエーションに来てくれている。運営推進会議を通して、もっと関わりが持てるよう努力している。	自治会に加入して回覧板が回ってくる。地区の有価物当番に参加したり、地域の運動会や夏祭りに参加している。祭り時は神輿が事業所の駐車場を休憩場所として、子供達が事業所の中で休んでいたり、ボランティアの訪問もあり地域と暖かい交流がされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホームの見学の際や、レクリエーションに来てくださった時など、話をさせていたがいてる。	ホームの見学の際や、レクリエーションに来てくださった時など、話をさせていたがいてる。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議においてサービスの状況等について報告し、感想や意見等を述べてもらっている。状況は職員会議等で報告し、今後のサービスに活かせるように努力している。	運営会議においてサービスの状況等について報告し、感想や意見等を述べてもらっている。状況は職員会議等で報告し、今後のサービスに活かせるように努力している。	家族代表・自治会長・民生委員・地域包括支援センター・地区委員・事業所代表が参加した会議で、事業報告を行い意見交換をしている。食量や神輿の休憩場所などの意見やアドバイスを受け、検討後運営に反映した。	開設から2年、湯村事業所と合同の会議であったが今後は、独自の会議とする予定となっているが、それぞれの地域性や事業所の抱える問題、また、参加者も異なるため独自の運営推進会議を行うことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	困った時は電話等で連絡し、気軽に相談できるように心がけている。地域包括支援センターとも連絡を密に行えるよう努力している。ケアマネジャー交流会に積極的に参加するようになっている。	困った時は電話等で連絡し、気軽に相談できるように心がけている。地域包括支援センターとも連絡を密に行えるよう努力している。ケアマネジャー交流会に積極的に参加するようになっている。	市の介護保険課に毎月、利用状況報告書を提出している。申請手続きや区分変更の相談にも的確な指導やアドバイスを受け、良好な関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束について理解すると同時に、日々検討しながら対応している。職員の研修会や会議でも周知できるよう指導している。	全職員が身体拘束について理解すると同時に、日々検討しながら対応している。職員の研修会や会議でも周知できるよう指導している。	毎月、身体拘束についての職員勉強会を実施している。玄関を出て行きそうな人には職員が一緒に付いて行き、公園などを散歩してくる。状況によりスピーチロックになる事もあるが、職員同士で注意し合っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	尊厳を大切にして、身体への虐待はもちろんのこと、言葉の暴力についても職員に注意を促している。入浴時や健康チェック時などに体調の変化に注意し気づくことの大切さも指導している。	尊厳を大切にして、身体への虐待はもちろんのこと、言葉の暴力についても職員に注意を促している。入浴時や健康チェック時などに体調の変化に注意し気づくことの大切さも指導している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は、学ぶ機会が作れていないので、学ぶ機会を設けて、制度を理解して活用していきたい。	職員は、学ぶ機会が作れていないので、学ぶ機会を設けて、制度を理解して活用していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	家族や本人と極力密に連絡を取り合い、不安な点などは、気軽に話ができるような環境作りに気を付けて行なっている。契約の際も疑問点がないか聞くように努めている。	家族や本人と極力密に連絡を取り合い、不安な点などは、気軽に話ができるような環境作りに気を付けて行なっている。契約の際も疑問点がないか聞くように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会時において、家族から上がった意見・要望は運営に反映し、面接時や運営会議において報告している。民生委員とは運営推進会議以外の時も意見を聞く機会を持っている。	運営推進会議や面会時において、家族から上がった意見・要望は運営に反映し、面接時や運営会議において報告している。民生委員とは運営推進会議以外の時も意見を聞く機会を持っている。	意見の出し易い雰囲気作りに努め、会議時や面会の折に意見を聞いている。また、投書箱を設置しているが活発に意見が出る迄には至っていない。ご飯の量が少ない、外出の回数を増やしてほしい、日光浴の回数を増やしてなど出た意見は検討して実施している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や要望等を聞くように心掛けている。	職員会議や日々の業務の中で、職員の意見や要望等を聞くように心掛けている。	月1回の職員会議で意見や要望を聞いている。また、管理者は平素より職員の不平や不満を聞くように心掛けている。インフルエンザ予防の加湿器や節分時の恵方まきへの意見、誕生日会のおやつ作りなど出された意見は反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休みの希望等を考慮して、勤務表を作成している。能力ややる気に応じた昇給も行っている。	休みの希望等を考慮して、勤務表を作成している。能力ややる気に応じた昇給も行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年5回、職員の内部研修を行い、知識や技能の向上に努めている。職員が講師を務めるため、相互の勉強の場にもなっている。外部の研修にも参加出来るようにしている。	年5回、職員の内部研修を行い、知識や技能の向上に努めている。職員が講師を務めるため、相互の勉強の場にもなっている。外部の研修にも参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内にいくつか事業所があるので、交流・研修は積極的に行っている。他事業所との相互訪問も、今後、積極的に行いサービスの質の向上に役立てたい。	法人内にいくつか事業所があるので、交流・研修は積極的に行っている。他事業所との相互訪問も、今後、積極的に行いサービスの質の向上に役立てたい。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや、入居後も要望等を聞き、考慮したケアを心がけている。入居後、顔合わせた時に安心してもらえるよう、支援を心掛けている。	入居前の聞き取りや、入居後も要望等を聞き、考慮したケアを心がけている。入居後、顔合わせた時に安心してもらえるよう、支援を心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の聞き取りや、入居後も要望等を聞き、考慮したケアを心がけている。入居後、顔合わせた時に安心してもらえるよう、支援を心掛けている。	入居前の聞き取りや、入居後も要望等を聞き、考慮したケアを心がけている。入居後、顔合わせた時に安心してもらえるよう、支援を心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援	臨機応変な柔軟な対応を心がけ、利用者	臨機応変な柔軟な対応を心がけ、利用者		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	とって何が最良な選択か考え行うようにしている。	とって何が最良な選択か考え行うようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭的な雰囲気の中、時には娘や息子、孫のようにお互い打ち解けあい、和やかな関係作りができています。	家庭的な雰囲気の中、時には娘や息子、孫のようにお互い打ち解けあい、和やかな関係作りができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とともにケアをしていきたいと考えている。家族にしかできないケアもあるので、連携を取りつつ信頼関係を築いていけるよう心掛けている。	家族とともにケアをしていきたいと考えている。家族にしかできないケアもあるので、連携を取りつつ信頼関係を築いていけるよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの場所が遠方の場合、その土地についていろいろ話す機会を持つようにしている。	友人宅へ行きたい利用者が遊びに行けるように支援したり、自宅に行きたい利用者を自宅にお連れしたり、馴染みの関係や場所との関係が途切れないように努めている。	以前利用していた小規模多機能型の友人に会いたいとの希望があり職員同伴で会いに行ってきた。馴染みの美容院の希望には家族へ連絡をして家族と共に行く。友人に会いたい希望には友人に連絡などし、関係が途切れないよう同伴や連絡をして関係継続の支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家庭的な雰囲気の中、皆で和気あいあいと話ができるように心がけている。孤立しないようにフォローをしたり、気の合う利用者が馴染みの関係を築き維持していけるよう支援している。	家庭的な雰囲気の中、皆で和気あいあいと話ができるように心がけている。孤立しないようにフォローをしたり、気の合う利用者が馴染みの関係を築き維持していけるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院により契約解除になった場合でも、必要があれば退院後の受け入れ先と一緒に探し支援し、家族が困ることのないよう相談にのり支援している。	入院により契約解除になった場合でも、必要があれば退院後の受け入れ先と一緒に探し支援し、家族が困ることのないよう相談にのり支援している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	話を聞く機会を積極的に設けるようにし、ケアプランに反映できるよう努めている。家族の希望も聞き、家族と協力しながら本人らしく過ごせるよう支援している。	話を聞く機会を積極的に設けるようにし、ケアプランに反映できるよう努めている。家族の希望も聞き、家族と協力しながら本人らしく過ごせるよう支援している。	家族に生活歴や以前の生活を聞いたり、利用者との日々全ての関わりの中で思いや希望を聞いている。意思の表出できない人は笑顔や暗い顔など、表情や仕草で思いを把握して、その人に添った支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	若い頃の話に耳を傾けたり、会話する機会を設けている。また、家族からもそれまでの生活歴を聞き、ケアに活かすよう努めている。	若い頃の話に耳を傾けたり、会話する機会を設けている。また、家族からもそれまでの生活歴を聞き、ケアに活かすよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人・家族から様子を伺い、また、職員同士日々気づいたことや情報を共有するようにしている。入浴時など、身体の様子をチェックしている。	本人・家族から様子を伺い、また、職員同士日々気づいたことや情報を共有するようにしている。入浴時など、身体の様子をチェックしている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要の関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成時に、その都度希望を聞き、本人・家族の希望を反映できるような計画にするよう努めている。また、処遇会議でも話し合いを行い、会議以外でも日々気づいたことはチームで話し合い、介護計画に反映できるように努めている。	計画作成時に、その都度希望を聞き、本人・家族の希望を反映できるような計画にするよう努めている。また、処遇会議でも話し合いを行い、会議以外でも日々気づいたことはチームで話し合い、介護計画に反映できるように努めている。	家族や本人に希望や意見を聞き、ケアマネジャーが計画書を作成する。その後担当者会議(職員会議)で検討している。出来上がった計画書を家族に説明して同意を得ている。説明時に家族より加えてほしい事柄の意見が出る時もある。初期は2か月後にモニタリング、安定すると6か月後に定期のモニタリングを行い、計画の継続や修正を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアについて毎日個別に記録に残し、情報を共有できるように工夫している。処遇会議の話し合いの時の内容も含め、実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアについて毎日個別に記録に残し、情報を共有できるように工夫している。処遇会議の話し合いの時の内容も含め、実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	臨機応変な柔軟な対応を心掛けているが、既存のサービス規則にとらわれている部分もあり、改善に努めている。	臨機応変な柔軟な対応を心掛けているが、既存のサービス規則にとらわれている部分もあり、改善に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	把握している部分もあるが、まだ掘り出しきれていない部分もあると思うので、幅広い視野を持ち、楽しく暮らせるよう支援していきたい。	把握している部分もあるが、まだ掘り出しきれていない部分もあると思うので、幅広い視野を持ち、楽しく暮らせるよう支援していきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に、家族や本人より、かかりつけ医の希望を聞いている。当法人にクリニックがあることを伝え、希望があれば主治医を移し健康管理のフォローも行なっている。	入居時に、家族や本人より、かかりつけ医の希望を聞いている。当法人にクリニックがあることを伝え、希望があれば主治医を移し健康管理のフォローも行なっている。	10名が法人内のクリニックをかかりつけ医としている、以前からのかかりつけ医を継続している人もいる。クリニックへの受診は職員が付きそっている。継続医受診は家族対応を基本としている。受診後の情報は受信ノートで職員が共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員には気づきを心がけてもらっており、気づいたことは随時、管理者・ケアマネ・看護職に報告相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。	職員には気づきを心がけてもらっており、気づいたことは随時、管理者・ケアマネ・看護職に報告相談し、適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した時は情報提供を行い、入院中は連絡を取り合い、退院時にも速やかに対処できるように努めている。また、医師や看護師ばかりではなく、リハビリの担当職員等からも情報交換し、必要あれば退院に向けてのサービス担当者会議も行うよう支援している。	利用者が入院した時は情報提供を行い、入院中は連絡を取り合い、退院時にも速やかに対処できるように努めている。また、医師や看護師ばかりではなく、リハビリの担当職員等からも情報交換し、必要あれば退院に向けてのサービス担当者会議も行うよう支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に、家族や本人の意向を聞くとともに、当法人内の特別養護老人ホームやクリニック等とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中で方向性を決めるようにしている。また、本人の状態を考えながら、適時話し合いの機会を持つようになっている。	入居時に、家族や本人の意向を聞くとともに、当法人内の特別養護老人ホームやクリニック等とも連携をとっていることを説明し、広い選択肢の中で方向性を決めるようにしている。また、本人の状態を考えながら、適時話し合いの機会を持つようになっている。	本人や家族の希望を第一としている。事業所は開設後2年と日が浅く、重度化や看取りへの体制がまだ整っていないが、法人内のクリニックや入所施設では、幅広い支援が可能であることを説明している。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年に1回は、救急法の内部研修を行い、実践力がつくように努めている。職員会議でも可能性のある急変のケースや事故発生時の対処の仕方など、指導するようにしている。	年に1回は、救急法の内部研修を行い、実践力がつくように努めている。職員会議でも可能性のある急変のケースや事故発生時の対処の仕方など、指導するようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に数回避難訓練を行い、利用者はもちろん職員の訓練を行なっている。地域の自治会長を通じ地域の方の協力を要請している。開所してまだ2年弱のホームなので協力体制を築けるよう努めている。	年に数回避難訓練を行い、利用者はもちろん職員の訓練を行なっている。地域の自治会長を通じ地域の方の協力を要請している。開所してまだ2年弱のホームなので協力体制を築けるよう努めている。	利用者も参加して避難経路の確認などの訓練を日中に行っている。災害時の協力は自治会長を通じ地域に依頼している。消火器は防火管理者が定期的に確認している。連絡網訓練や災害時の初期対応訓練はされていない。	災害はいつどんな形で起きるかわからない。2階にも半数の利用者が居る為、災害時の初期対応・避難経路の再確認・避難方法と必要物品の準備、連絡網訓練など夜間想定も含めた訓練を期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷付けないよう声掛けに配慮するよう努めている。毎月の職員研修でも、新人職員に対して指導している。	一人ひとりの尊厳を大事にし、プライドや人格を傷付けないよう声掛けに配慮するよう努めている。毎月の職員研修でも、新人職員に対して指導している。	部屋は一人ひとりの住まいとして、声掛けしてから入って行く。利用者は目上の方という意識の中で接している。トイレは側で声掛けしてそっと付いて行く。呼び名は希望を聞いて親しみある言葉として、その人らしさを大切にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別で対応し遠慮せず話せる場を設けている。本人が答えやすいように質問の仕方にも配慮している。	個別で対応し遠慮せず話せる場を設けている。本人が答えやすいように質問の仕方にも配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあった支援をするように心掛けている。時間の都合で断念せざるを得ない時もあるが、その人のペースにあった支援をするよう努めている。	一人ひとりにあった支援をするように心掛けている。時間の都合で断念せざるを得ない時もあるが、その人のペースにあった支援をするよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を聞きながら、イベントの時などお化粧をさせていただいている。あくまでも本人のおしゃれができるよう支援している。	できる方には家族の方に化粧道具を持ってきてもらい、お化粧できるよう支援している。また、本人の希望を聞きながら、イベントの時などお化粧をさせていただいている。あくまでも本人のおしゃれができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の好みに関してはなるべく本人の希望にこたえられるよう努力している。食事の準備や片づけも、声掛けを行い職員と一緒にするようになっている。	食事の好みに関してはなるべく本人の希望にこたえられるよう努力している。食事の準備や片づけも、声掛けを行い職員と一緒にするようになっている。	メニューは法人の栄養士が作成した予定表が回ってくる。朝は希望でパン食としているがメニューの希望は少ない。盛り付けや食器拭きの作業に参加している利用者もいる。外食を楽しんだり、行事食は利用者も作業に参加している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの症状や状態に合わせた食事やおやつを支援を行なっている。日々の変化にも、職員の間で申し送りをするにより、その時々に応じた支援を行なっている。	一人ひとりの症状や状態に合わせた食事やおやつを支援を行なっている。日々の変化にも、職員の間で申し送りをするにより、その時々に応じた支援を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1階)	ユニット名(2階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、その人ADLに合わせた口腔ケアができるよう支援している。	毎食後、その人ADLに合わせた口腔ケアができるよう支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄のパターンを記録に残し、それをもとに対応している。なるべく失敗のないよう、日中を中心に声掛けの必要な方には声掛けし、トイレ誘導を行なっている。	個々の排泄のパターンを記録に残し、それをもとに対応している。なるべく失敗のないよう、日中を中心に声掛けの必要な方には声掛けし、トイレ誘導を行なっている。	パターンシートで見計らいトイレ誘導をしている。18人中4人はほぼ自立している。尿意が無い人も日中はリハビリパンツにしてトイレ排泄をしている。夜間はポーターブルトイレの人も居るが時間で声かけて自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の有無を記録に残し、必要あれば医師に相談している。下剤をなるべく使わなくてもいいように、日頃から水分量や食事の内容に気をつけ、体も動かすように支援している。	排泄の有無を記録に残し、必要あれば医師に相談している。下剤をなるべく使わなくてもいいように、日頃から水分量や食事の内容に気をつけ、体も動かすように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	お風呂好きな人には、なるべくたくさん入浴できるように支援している。本人の希望や体調に合わせて、無理強いしない支援をしていくよう努めている。足湯も行なっている。	お風呂好きな人には、なるべくたくさん入浴できるように支援している。本人の希望や体調に合わせて、無理強いしない支援をしていくよう努めている。夕食後の入浴の希望は対応が難しく、今後の課題となっている。足湯も行なっている。	浴室は2か所あり月曜日～日曜日まで、毎日実施している。希望で週1～3回入っている。拒否する利用者には時間を置いて再度声掛けしたり、娘さんや息子さんの名前を出して入浴を勧めている。バケツに湯を張っての足浴や、希望で湯村事業所の足浴に行く事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中睡眠を行なう方はしたり、夜の睡眠につながるような支援も行なっている。一人ひとりの様子に目を配り、眠そう方にはゆっくり居室で眠れるよう支援している。	日中睡眠を行なう方はしたり、夜の睡眠につながるような支援も行なっている。一人ひとりの様子に目を配り、眠そう方にはゆっくり居室で眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人のケース記録に薬の説明書を綴っており、理解しておくようにしている。受診した際は受診ノートに詳細を記録し、必要な場合は申し送りノートにも記録し、職員が周知できるようにしている。	個人のケース記録に薬の説明書を綴っており、理解しておくようにしている。受診した際は受診ノートに詳細を記録し、必要な場合は申し送りノートにも記録し、職員が周知できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントはしっかり行なうように努め、それを活かした支援ができるように努めている。張り合いや喜びのある日々を送れるよう心がけているが、一人ひとりの対応については、まだ職員の工夫が必要である。	アセスメントはしっかり行なうように努め、それを活かした支援ができるように努めている。張り合いや喜びのある日々を送れるよう心がけているが、一人ひとりの対応については、まだ職員の工夫が必要である。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	可能な限り、本人の希望に沿って支援できるように心掛けている。家族と出かけるのが好きな方には家族と出かけられるよう支援している。一人ひとりに合わせ、個別や少人数での外出や外食も行っている。	可能な限り、本人の希望に沿って支援できるように心掛けている。家族と出かけるのが好きな方には家族と出かけられるよう支援している。一人ひとりに合わせ、個別や少人数での外出や外食も行っている。	家族と出掛けるのを好きな人には家族が対応している。希望を聞いて季節に応じた外出で花見や法人の夏祭りに等に出掛けている。クリスマス会は湯村事業所の会場を借りて行った。車椅子の利用者も一緒に参加している。少人数での買い物や外食にも出掛けている。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(1 階)	ユニット名(2 階)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の希望・家族の同意の上でお金を所持している方もいる。お金を所持していない方でも、買い物ツアーなどで職員が付き添い、自分で品物を選び料金が支払えるように支援している。	本人の希望・家族の同意の上でお金を所持している方もいる。お金を所持していない方でも、買い物ツアーなどで職員が付き添い、自分で品物を選び料金が支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいと訴えあった時は、一緒に寄り添い、本人自身が電話できるよう支援している。手紙のやり取りに関しては、現在行っている方がおらず、今後やりたい方はできるように支援していきたい。	電話をかけたいと訴えあった時は、一緒に寄り添い、本人自身が電話できるよう支援している。手紙のやり取りに関しては、現在行っている方がおらず、今後やりたい方はできるように支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の手作りのものや、季節のものを飾ることによって居心地の良い空間が作れるよう努めている。トイレにはわかりやすいように張り紙もしている。	利用者の手作りのものや、季節のものを飾ることによって居心地の良い空間が作れるよう努めている。トイレにはわかりやすいように張り紙もしている。	玄関を入ると1階は真ん中で左右に分かれ右側は広いフロアで左側が食堂とキッチン、日当たりの良い南側に居室が並んでいる。床や部屋の戸などに多くの木が使われており、心が安らぐ内装になっている。フロアの一角にお内裏様が飾られ、壁にもさりげなく絵や写真が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアにソファを置き、本人の居室なども含め、好きなところで過ごすことができるよう配慮している。馴染みの関係も出来ている。	フロアにソファを置き、本人の居室なども含め、好きなところで過ごすことができるよう配慮している。馴染みの関係も出来ている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には 馴染みの物を持ってきてもらうようお願いし、居心地の良い空間が作れるよう配慮している。	居室には 馴染みの物を持ってきてもらうようお願いし、居心地の良い空間が作れるよう配慮している。	居室は希望で持ち込まれたタンス・机・テーブル・仏壇など、全てその人らしい部屋になっている。ベットも事業所の木製のベットの人や体力・体調に合わせ介護用ベットの利用者もいる。カーテンもその人の好みで吊るされ、落ち着いて過ごせる居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	階段があるが、見守りをすることで安全に生活できるよう配慮している。フロアにも段差はない。できることは自分でやっていたくよう職員も配慮している。	階段には扉をつけ、見守りをすることで安全に生活できるよう配慮している。フロアにも段差はない。できることは自分でやっていたくよう職員も配慮している。		